

やりがい、生き甲斐を
実感できる社会を目指します。

さいとう

斉藤
かつのり



ごあいさつ

私の県政活動に対しまして、日ごろから格別のご理解とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。
 昨年、の元日に能登半島地震が発生し、災害はいつでもどこで起こるかわからないという思いを強くしております。今後とも、災害への備えを確かなものにしていくとともに、身近な暮らしの安全と安心を守る取組みをしっかりと進めていかなければなりません。
 このほか、人口減少対策や地域経済の活性化、農業・農村の整備、女性や高齢者、障害者が活躍できる社会づくり、デジタル化や脱炭素社会への取り組みなど県政の諸課題が山積しております。
 これらを解決するためには、県民の皆様のご意見をお伺いしながら、各分野における的確な施策を積極的に推進し、次の時代に引き継いでいく必要があります。
 私は、香川県議会議員の一員として、地元三豊市、ひいては香川県の発展のため、全力で取り組んでまいる所存ですので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

重点課題(優先施策)

① 人口減少対策

移住・定住の促進が肝要であり、本県の魅力の情報発信、仕事や住まいのマッチング、定住のサポートを基本に、SNSを活用した県出身学生に対する情報発信や、東京圏から就職する学生への支援、東京や大阪における就職コーディネーターの配置などに取り組むほか、本県への移住者数が最も多い関西圏でのPRを強化することにより、本県へのUターンを促進します。さらに、地域ごとに異なる諸課題に対し、県庁内に市町担当を配置し、役割分担を図りながら、市町等とともに、より効果的な人口減少対策を推進します。



大都市圏での移住フェアの開催

② 結婚、子育てしやすい環境づくり

かがわ縁結び支援センターでは、SNSを活用した周知啓発、マナーアップセミナーの開催や婚活イベントへの支援など、会員数、成婚数を増やすための取組みを進めています。
 産婦が健康管理や育児サポートを安心して受けられるよう、国の減免支援に上乗せして実施する市町に対して補助しています。
 子育て家庭の多様な保育ニーズに対応するため、引き続き、市町における一時預かりや病児・病後児保育等の取組みを支援しています。



かがわ縁結び支援センター

③ 地震・津波対策

南海トラフ地震への対策として、「地震・津波対策海岸堤防等整備計画」を策定し、優先度の高い箇所から重点的・集中的に対策を進めています。
 海岸堤防では、高松港海岸など県内15港海岸、河川堤防では、相引川など12河川において、護岸・水門・堤防の整備などの対策事業を実施しています。
 地震・津波対策としては、被害想定を踏まえて計画的に進めていくことが安全・安心の確保に極めて重要であり、引き続き着実に事業の推進に取り組めます。



整備前



整備後

知事に対する令和7年度当初予算編成への要望

本県の経済は、個人消費や所得・雇用情勢は緩やかに改善しつつありますが、山積する課題に対し、真に必要な高い効果的な事業に重点化を図り、安全で安心な県民生活を確保するため、池田知事に対して令和7年度当初予算編成への重点要望を行いました。

人口減少・少子高齢化対策、コロナ禍を経て原油価格・物価高騰の影響を受けている地域経済の回復をはじめ、総合的な防災・減災対策、交流人口の拡大、デジタルトランスフォーメーションの推進、地球温暖化対策など、最重点事項50項目、重点事項97項目を要望しました。

これに対し知事からは、財政の持続可能性を確保しつつ、県勢の発展に繋がるよう、税収の増加分や歳出削減などで生み出された財源のうち19億円を、新たに未来投資枠として設け、県政各分野における、早急に解決すべき社会課題への対応や、県勢発展の礎を築くための投資に重点配分し、当初予算規模としては「人生100年時代のフロンティア県」実現計画の最終年度として、前年度を上回り4,967億円を超える積極的な予算編成としたいとの回答がありました。



県外企業への視察・意見交換

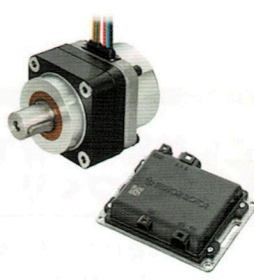
国内外で注目され、本県に関連した事業展開が期待される首都圏の企業2社を訪問し、経営方針や課題などを聴きました。

横浜にある郵船クルーズ(株)は、令和4年以降はクルーズ客船の需要が回復し、国内客だけ(リタイアした方々が大部分)でフル稼働し、殆ど満席・絶好調となっています。これまではインバウンドの取込みまで拡げることができなかったが、今夏、新たに1隻「飛鳥Ⅲ」を追加就航させ、事業の拡大を図っています。

香川県に関しては、クルーズ船で「高松まつり・花火」を見学するのは、迫力があり好評です。花火の規模は全国にもっと大きなものは多いが、船上から間近で見ることができるのは希少であり、また、徒歩で港周辺を散策できることも魅力的とのことでした。

千葉県に本社・研究所を構えているマブチモーター(株)は、高松市にて戦後まもない頃、当時の常識を超え、永久磁石を用いた小型モーターを開発したパイオニア企業であり、経済の発展、産業の高度化、生活水準の向上とともに、飛躍的な発展を遂げてきました。同社製品は、自動車電装機器やライフ・インダストリー機器で広く採用され、身近な製品の心臓部等に導入され、省エネ、CO2削減、省人化などの高まる需要に応えています。

経営人材や研究・技術人材の採用・育成については、実力主義を徹底しており、中途採用はもとより、退職・転職・復職などの多様な働き方にも積極的です。香川県から理系・文系の優れた人材が多く輩出されており、勤勉な地域性であることから、注目・期待しているとのことでした。



国への要望活動

県の事業や施策を推進するうえで、国との連携・協力が不可欠であり、国会議員や関係省庁に対して地域の実情や課題を伝えとともに、新たな制度の創設や必要な予算の確保について具体的に説明・要望を行っています。

今年度は1月に国土交通省及び農林水産省の幹部職員に会い、本県の現状や課題を説明するとともに、国土交通省には、高規格道路の整備、海岸や河川の地震・津波対策、高松港の港湾整備、下水道事業の推進、離島航路の存続に向けた支援、高松空港の機能強化、四国の新幹線導入などを、また、農林水産省には、ため池の総合的な防災減災対策、農家負担軽減を踏まえた農業農村整備事業予算の確保などを要望しました。

なお、4月には、国から、要望事項の1つであった高松空港における着陸誘導装置の高性能化に向けた予算19億円が配分されることが公表され、早ければ令和8年度に事業化される可能性があり、活動の成果として空港の利便性が大きく向上することに期待しています。



代表質問

自民党議員会では、各会期ごとに、会派を代表して意見・主張・質疑・質問を行っています。

令和6年6月定例会 齊藤 勝範 議員

- | | | |
|------------------|----------------------|-----------------------|
| ① 香川用水通水50周年記念事業 | ④ 海ごみ対策 | ⑦ 海外の富裕層などを含めた観光客の誘致 |
| ② 若者世代に向けた広報 | ⑤ 新たな感染症に備えた今後の感染症対策 | ⑧ 果樹の生産振興と需要拡大 |
| ③ 県民の防災意識の向上 | ⑥ 中小企業への支援 | ⑨ 高松港の物流・人流拠点としての機能強化 |
| | | ⑩ 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成等 |

令和6年9月定例会 松本 公継 議員

- | | | |
|----------------------|-----------------------|--------------------------------|
| ① 令和5年度決算の状況と今後の財政運営 | ④ 介護人材の確保・定着 | ⑦ スマート農業の推進 |
| ② 災害対応力の強化 | ⑤ 県内企業及び県庁における若者の人材確保 | ⑧ 線引き廃止後20年の総括・評価と今後のまちづくりの方向性 |
| ③ 能登半島地震を踏まえた災害廃棄物対策 | ⑥ かがわ物産館栗林庵の一層の活用 | ⑨ 児童生徒の健康・安全の確保 |

令和6年11月定例会 平木 享 議員

- | | | |
|--------------------|---------------------|--------------------------|
| ① 令和の大合併 | ④ 新たな感染症に備える取組み | ⑦ 道路照明灯の一斉LED化 |
| ② 香川大学への危機管理学部の設置等 | ⑤ 高松盆栽の国際戦略 | ⑧ 多様な主体との連携を通じた小中学校教育の充実 |
| ③ 県民参加の海ごみ対策の推進 | ⑥ 農業・農村の有する多面的機能の発揮 | ⑨ 警察組織における優秀な人材の確保 |

令和7年2月定例会 齊藤 勝範 議員

- | | | |
|----------------------|---------------------|-------------------|
| ① 令和7年度当初予算案 | ④ 児童虐待への対応 | ⑦ 果樹の生産振興 |
| ② 市町等と連携した防災・減災対策の推進 | ⑤ 若者等の県内への就職促進 | ⑧ 高松港の港湾計画の改訂 |
| ③ プラスチックリサイクルの推進 | ⑥ 観光需要が高まる中での人手不足対策 | ⑨ 教育の情報化の推進 |
| | | ⑩ 県立病院における医療人材の確保 |

意見書の提案・決議及び国に提出

県議会は、地方自治法に基づき国に意見書を提出することができることになっており、自民党議員会では、各定例会において、県民生活に関わる様々な課題等について、国に対応を求める意見書を提案し、本会議にて決議したうえで国に提出しました。

令和6年9月定例会

① 水道施設の更新・耐震化に関する支援

本県では7年前から香川県広域水道企業団が一元的に水道事業を運営しているが、配水管や浄水施設の老朽化が急増しつつある一方で、人口減少や物価高の影響で増加する事業量に対応できていない。このため、国によるさらなる財政支援を求める。

② 消防団員の確保に関する支援

消防団員数は、本県を含め全国で減少の一途であり、地域防災力の低下が懸念されている。近年の全国的な災害の頻発化・激甚化を鑑み、消防団員の加入促進を図るため、広報活動の強化や処遇改善の財政措置拡充を求める。

③ 中小企業・小規模事業者への支援

大企業を中心に景況感には改善傾向が表れているが、中小事業者は、経営者の高齢化、最低賃金の引上げ、働き方改革関連法の適用への対応など、多くの課題を抱えており、依然として厳しい状況にある。労働者を採用した場合に社会保険料を助成したり、発注側企業との価格交渉において、適切に価格転嫁できる環境を整備したりするなど、フォローアップが必要である。

令和6年11月定例会

① 空飛ぶクルマの実用化の推進

ドローンなど「空飛ぶクルマ」の実用化については、安全性の確保をはじめ、様々なタイプの機体への対応、離着陸場の整備、電源設備の設置など様々な課題がある。本県では、昨年9月に初めて有人の実証飛行を行い、技術的には問題ないことを確認しており、国には、モデル事業を創設し、新たな交通サービスとして普及を後押しするなど、先駆的な取組みを要望する。

② 「こども誰でも通園制度」の推進・拡充

こども家庭庁は、保護者の就労要件を問わず、月一定時間まで保育施設を利用できる新たな通園給付を始めているが、地域の実情、保護者や児童の事情、保育人材の確保など、推進・拡充を要望する。

令和7年2月定例会

① 高額療養費の自己負担上限額の据置

高齢化の進展や高額な薬剤等の登場による財政支出を踏まえ、政府は、全ての世代の被保険者の負担軽減を図るため、所得に応じて自己負担上限額を見直す方針であった。このため、がん患者団体等から不安や懸念が示されていた。国には、現場の実態を踏まえ、安心して必要な医療を受けることができる社会を維持するため、自己負担上限額の据置を強く要請する。

② オーバードーズ(薬物の過剰摂取)防止対策の強化

催幻覚作用のある市販薬などの医薬品については、違法薬物とは異なり、容易に入手でき、所持することは法令に抵触しないことから、若年層に濫用が増加しており、重大な社会問題となりつつある。国においては、販売時の適切な管理、相談窓口等の整備を求める。



齊藤 勝範 議員



山田 正芳 議員



松本 公継 議員



平木 享 議員



鎌田 守恭 議員

1 防災・減災対策

南海トラフ地震は、今後30年以内の発生確率が80%に高まっており、早期に対策を行うべき箇所から優先的・計画的に海岸・河川の堤防整備やため池の耐震対策を行うとともに、住宅の耐震化や家具類の転倒防止対策の促進、さらには参加実践型の防災イベントによる防災意識の向上など、ハード・ソフト両面で「災害に強い香川づくり」に取り組みました。

また、地区防災計画の策定促進や企業との連携による自主防災組織等の機能強化、SNSの県公式防災アカウントを活用して県民の防災意識の向上に努めるなど、ソフト対策の一層の強化も図りました。



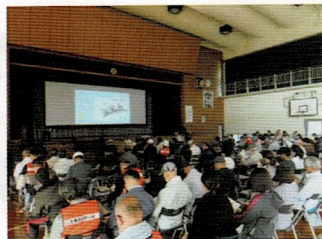
参加実践型の防災イベント

3 ため池の防災対策

県では、昭和43年から「老朽ため池整備促進計画5か年計画(第12次)」を順次策定し、計画的に、老朽ため池の整備に取り組んでおり、令和6年度までに、老朽ため池の整備を3,593箇所、南海トラフ地震の発生に備えたため池の耐震化整備を61箇所、受益地がなくなり防災上放置できない中小規模ため池の防災対策を73箇所で行いました。また、関係機関と連携し、ため池ハザードマップを活用した防災訓練を行っています。



防災重点農業用ため池の改修工事



ため池ハザードマップを活用した防災訓練

2 県内企業の人材確保

香川県就職・移住支援センター「ワークサポートかがわ」において、専門のコーディネーターによる就職相談や無料職業紹介をはじめ、就職支援サイト「ワクサポかがわ」を運営し、県内企業の人材確保に取り組んでいます。さらには、女性求職者の就職促進のためのコーディネーターを追加配置するほか、デジタル人材と県内企業との効果的なマッチング支援を図るためのイベントを開催したり、若者の興味・関心が高い業界の県内企業等を掲載した冊子「かがわ企業ガイド」を作成して県内企業の魅力発信を行ったりするなど、県内企業の人材確保に取り組んでいます。



香川県就職・移住支援センター「ワークサポートかがわ」

4 さぬき浜街道の整備

さぬき浜街道の一部である県道高松坂出線は、臨海部の産業振興や物流の効率化のために大変重要であり、令和元年度から橋梁やトンネルを含む約7km区間の4車線化を進めており、令和7年3月には五色台トンネルが開通しました。

今後は、令和4年に開通した多度津町の白方トンネルについて、4車線化の整備に取り組めます。



令和7年3月に完成した
五色台トンネル



白方トンネル

【プロフィール】

【経歴】

- ・昭和32年1月 生れ
- ・昭和54年3月 東京農業大学農学科 卒業
- ・昭和54年4月 衆議院議員大平正芳秘書
- ・昭和55年6月 衆議院議員森田一秘書
- ・平成15年4月 香川県議会議員に初当選
- ・平成24年4月 経済常任委員会委員長
- ・平成26年4月 自由民主党議員会政務調査会長
- ・平成29年4月 自由民主党議員会幹事長
- ・令和5年4月 自由民主党議員会会長

【現在の役職等】

- 環境建設常任委員会委員
- 県立アリーナ整備等に関する特別委員会委員
- 香川県土地改良事業団体連合会副会長
- 香川用水土地改良区 理事 総務委員長
- 香川県三豊市三野町土地改良区理事長

【趣味】 ゴルフ、園芸

【座右の銘】 永遠の今

経済委員会での質問項目

令和6年6月定例会

- ・多様な人材の就労促進について
- ・瀬戸内海国立公園指定90周年「香川×岡山」つながる食の大博覧会」の成果について
- ・田んぼダムの推進について

令和6年9月定例会

- ・県内企業における若者の人材確保について
- ・今後の観光振興について
- ・小麦の産地づくりに向けた輸出の取組みについて

令和6年11月定例会

- ・県内企業における事業継続計画策定の推進について
- ・大名庭園間の連携とデータを活用した誘客の取組みについて
- ・農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮について

令和7年2月定例会

- ・伝統的工芸品のPR促進について
- ・琴弾公園のリニューアルを契機とした周辺観光施設との連携について
- ・クルーズ客船の誘致に向けた取組みについて
- ・土地改良区における「水土里ビジョン」の策定について